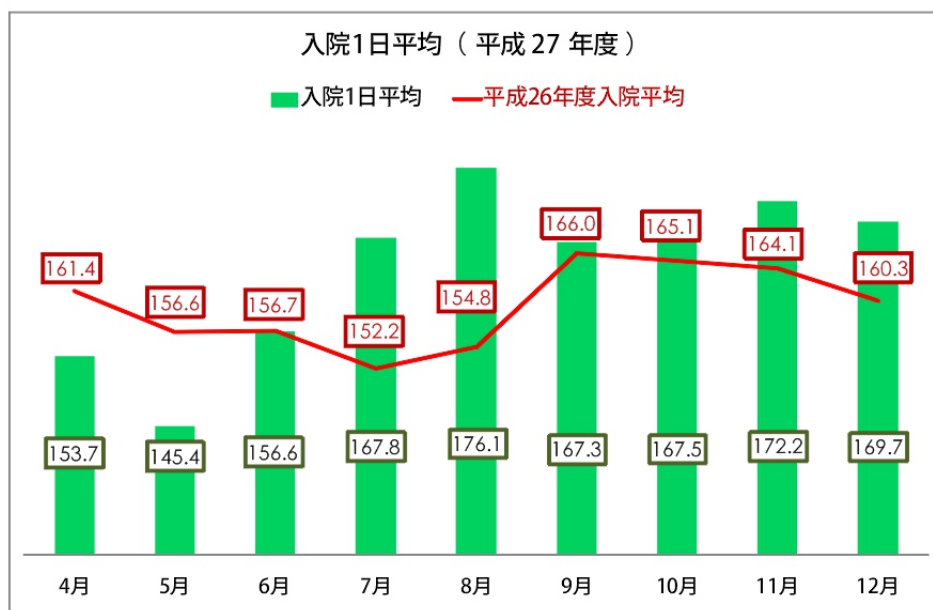
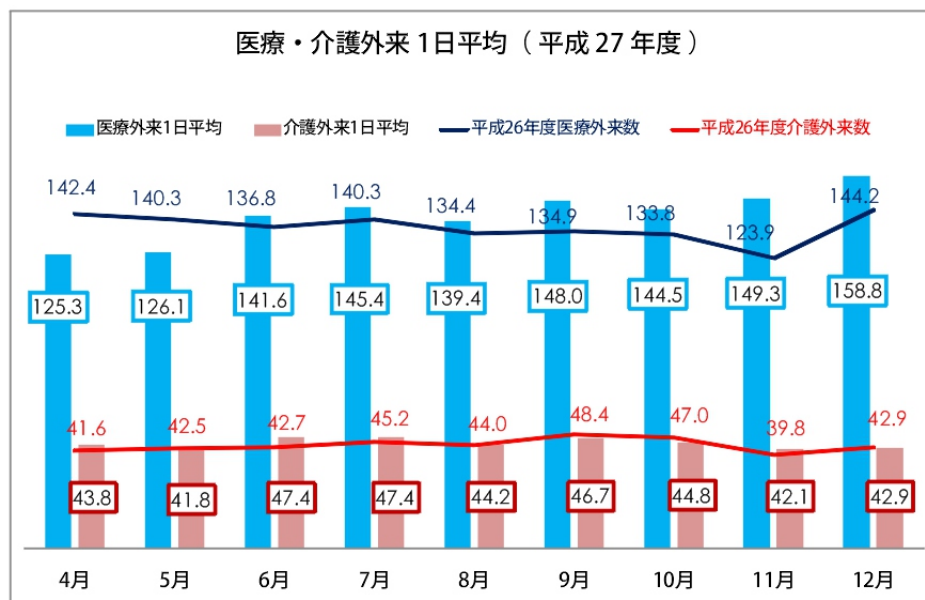


院長の独り言 (2016年1月9日執筆)

昨年4月から12月までの静仁会静内病院の入院患者数と外来患者数の統計をご覧にいたします。



入院患者数も外来患者数も6月以降非常に多くなっております。入院患者数増加の理由の一つに、西原副院長による外科手術が本格的に始まったことが挙げられます。手術件数のおおよそ2/3は骨折などの整形外科手術です。高齢化の進む地域での手術に関するニーズは、転倒による大腿骨頸部骨折などがどうしても多くなります。さらに独居の高齢者が増えていることもあり、地元で手術ができることのメリットは計り知れません。静仁会静内病院はこのような社会的傾向によく対応できていると考えます。



外来患者数増加の理由の一つに、井関小児科部長の外来の開設が挙げられます。それまで常勤の小児科医による診療は静内地区では行われていませんでした。小児科診療は月曜と水曜は夕診の時間帯(17:00-19:00)でも行われています。いつでも小児科医の診察が受けられる態勢も、地域が望んでいたことだと思います。静仁会静内病院は、これからも地域が必要としている医療を提供できるように、一層の体制の充実を図って参ります。